

## 離島の小規模病院から特定ケア看護師を

公立久米島病院 看護部長 太田紀子

### はじめに

久米島は、沖縄本島から西に約100km離れた場所にあり、沖縄諸島での最西端にある人口約7,000人の離島です。琉球王朝時代、中国をはじめ東南アジアや朝鮮、日本との中継貿易により久米島は「寄港地」として栄えました。天与の恵みをうけ自然豊かな久米島は、琉球列島で最も美しい島であることから「球美の島」とも呼ばれてきました。素晴らしい環境にありますが、海により隔絶された離島であるが故の条件不利性があります。人口減少や少子高齢化をはじめ、沖縄本島と比べても産業の低迷および交通の利便性の低下などの社会的条件不利性が増大しています。

### 離島の小規模病院

当院は、内科、外科、小児科、整形外科を含む14診療科、急性期一般病床40床、透析10床を有する小規模病院です。2019年、院内にみなし訪問看護「つむぎ」を設置して在宅療養支援を行っています。また、もう一つの特徴として、小児科医を中心とした療育外来、小児発達相談外来、心理外来を設け「島でこどもを育てていく」環境づくりにも取り組んでいます。

小児から高齢者まで「患者様が安心できる医療を進めるとともに、病気や健康管理に気軽に相談できる久米島住民の主治医病院をめざします」の病院理念のもと、島内外の介護・福祉・行政と連携強化を図りながら島唯一の病院として、



BLS の研修

久米島町の地域包括ケアの一翼を担っています。

当院の職員は、北海道から沖縄まで全国各地から集まっており、離島の生活や医療・看護を経験したい、環境を変えて自分を見つめ直したい、離島に貢献したい、マリンスポーツを楽しみながら仕事をしたいなど働く理由は様々。育った環境や教育背景、価値観も異なりますが、互いを尊重し久米島の医療を支えるチームとして日々奮闘しています。

### 特定ケア看護師を久米島に！

私は師長時代、地域医療振興協会の特定行為研修が始まった頃に研修を受けさせてほしいと願い出ました。しかし、看護部長の答えは「NO」でした。長期研修に出す人的余裕がない状況と、研修を受けることで医学的知識や技術は身に付くが、看護に対しての意識が低くなるのではないかという懸念があったようです。

当時から、常勤の腎臓内科医はおらず現在も沖縄本島の総合病院より、月1回非常設科とし



NPPVマスクのフィッティングの研修  
豚足を使ったデブリードメントの実習

て腎臓内科医の診療を設け、透析患者さんを診ています。日々のケアや病態・シャント管理は、内科常勤医・看護師・臨床工学技士が、試行錯誤しながら行っており、シャントトラブルなどの専門治療や検査などが必要な場合には、患者さんは沖縄本島へ渡り治療を受け、また島に戻って透析を継続します。専門医・スペシャリストがいない久米島には、専門技術と知識を用いて「患者さんに今なにが起こっているのか」臨床推論を展開しながら医師と看護師、患者さんをつなぐことができる特定ケア看護師が必要だと切実に感じていました。

昨年看護部長に就任した私のところに、現在NDC 8期生として研修中の富田さんから皮膚・排泄ケア認定看護師の道に進みたいと相談がありました。認定看護師養成機関へ入学するには症例の提出が求められます。しかし、当院で症例を取ることは困難なため良い方法はないかとNDC研修センターの鈴木靖子次長へ相談しました。鈴木次長は、私がNDC研修について相談した際のことを覚えてくださっており、とても感激しました。そして、皮膚・排泄ケア認定看護師ではなく、特定ケア看護師はどうかと勧められました。しかし、富田さんは膨大なeラーニングや21区分38の特定行為の研修を修了できるのかという不安と、皮膚・排泄ケア認定看護師へ進みた

いという気持ちの間で揺れていましたが、鈴木次長を交えた面談を重ねた結果、特定ケア看護師となるべく久米島から最初のNDC研修生が誕生しました。

現在、区分別科目実習中の富田さんから、「東京北医療センターの実習も2週目が終わりました。総合内科に入れてもらい、チームの先生方やNPさん、NDCの先輩方にフォローしていただきながら、なんとか頑張っています。eラーニングも頑張りましたが、まったく太刀打ちできず…。毎日毎日勉強漬けですが、とても楽しいです。周りがずっと勉強しているので、私も自然と勉強したくなるんですね(笑)。環境って大事だなって思いました」とうれしい報告がありました。大変な中でも前向きに研修を受ける姿勢に成長を感じ、また誇らしく思います。この場を借りて、最適な環境を与えてくださる研修施設の皆さま、支えてくださる協会の方々に心より感謝申し上げます。

## 特定ケア看護師への期待

医師の働き方改革を離島で推進していくには、タスクシフト・タスクシェアできる特定ケア看護師の存在が重要と考えます。病棟をはじめ、在宅や介護施設への訪問診療・訪問看護、重症患者や高エネルギー外傷患者の受け入れ、ドクターヘリによる搬送までの集中ケアなど、離島における多様な医療ニーズに対し特定ケア看護師は、医師と協働し幅広い対応が可能であると考えます。

初めて、特定ケア看護師を迎えるにあたり不安な面もありますが、今後は病棟・外来救急・透析・訪問看護に特定ケア看護師を配置し、離島医療・看護の質の向上とその活動を特定ケア看護師自ら発信できることを期待します。